

「基本理念」について

いくつになっても自分らしく 地域で支え合い、安心して暮らせるまち あかし

わが国は、「超高齢社会」から少子高齢化の進行により、生まれてくる子どもの数が減少し、高齢者の死亡数が増加する「人口減少社会」が到来しています。単身世帯の増加や世帯規模の縮小が進み、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯も増加するなか、高齢者の社会的孤立も懸念されています。また、介護・介助を必要とする高齢者や多様で複雑化・複合化したニーズを抱える世帯が顕在化するなか、すべての高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、地域社会の活力を維持し、地域全体で支えていく取組が必要です。

さらに、医療の進歩や健康づくりの取組によって、わが国は、平均寿命、健康寿命とも世界一の長寿社会となっていますが、平均寿命と健康寿命との差は、男女ともに10歳程度となっています。高齢者一人ひとりの生活の質を維持し、社会保障制度を持続可能なものとするためには、誰もがいくつになっても元気に活躍し続けられる社会づくりを進めていくことも求められるようになっていきます。

こうした中、本市では、まちづくりの最上位計画である「あかしSDGs推進計画（明石市第6次長期総合計画）」を2022年（令和4年）3月に策定し、2030年のあるべき姿を「SDGs未来安心都市・明石 ～いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで～」と定めて、取組を進めています。

「あかしSDGs推進計画」が本市におけるまちづくりの方向性として「すべての人が助け合い安心して暮らせるまち」を目指すとしていることを踏まえて、また、これまでの「地域で支えあい 安心して暮らせるまちづくり～地域共生社会の実現に向けて～」を基本理念として取組んできた現在の第8期計画の基本的な考え方やその歩みを引継ぎ、本市の高齢者福祉の基本理念を「いくつになっても自分らしく 地域で支え合い、安心して暮らせるまち あかし」と定めます。

2. 施策展開の基本方向

基本理念

「いくつになっても自分らしく
地域で支え合い、安心して暮らせるまち あかし」

